

学校づくり 4つの基本理念

公立学校をあきらめない！  
目を見て話そう！そして、感動と感謝を口に  
子どもをスーパーヒーローにする  
違和感キャッチ！スピード対応！

学校教育目標  
その手で未来を創りあげる桂坂の子～かわる、つながる、そして、かがやく～



“桂坂IDER”

Inquiry and Issue discovery  
課題発見・探究力  
Dialogue and empathy  
対話共感力  
Resilience  
レジリエンス

整理整頓、清掃の徹底  
割れ意理論を生じさせない

架け橋プログラムの積極的な取組推進

学級活動(1)を着実に  
合意形成学ぶ学級会

キャリア・パスポートの  
内容充実

あしあと掲示で、躍動  
する校内を見える化

桂坂にこにこなかなよしあん  
ぜん登校の継続・点検

愛鳥モデル校指定  
野鳥遊園の活用推奨

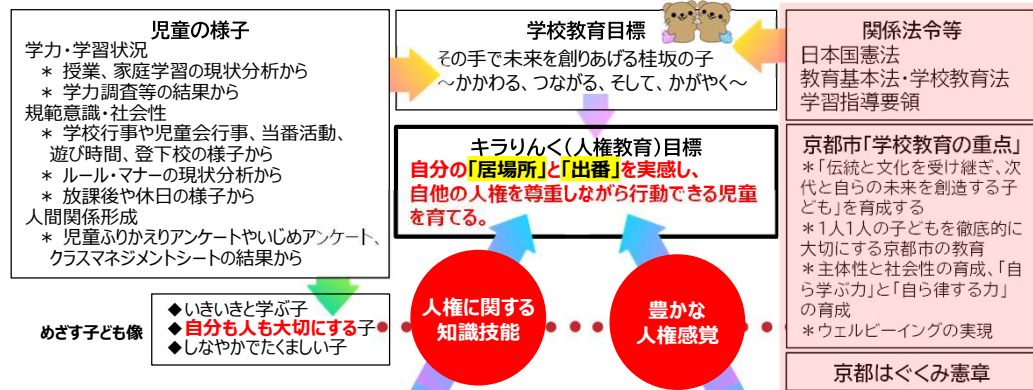
「ほんまもん」教育

教育を学校内に閉じない  
外部協働・校外学習推進  
社会に開かれた教育課程の確立  
地域・人材バンクの活用・増強  
学校運営協議会・地域各種団体と連携

全市スキルアップディ(小)  
自己研鑽で教師力アップ



令和7年度 京都市立桂坂小学校 キラりんく(人権教育)の全体計画



キラりんく(人権教育)を通して身に付けさせたい資質・能力(発達段階における目標)

着眼点	低学年	中学年	高学年
生命	いのちの大切さに気づき、安全な暮らしをすることが出来る。	いのちをかがやかせないものとして大切に、すくすく健康、安全な暮らしに取り組むことができる。	自他のいのちの尊さを理解し、互いの健康、安全を脅かすものをしていくために協力することができる。
尊厳	だれもがしあわせに生きたいと願っていることに気づき、いじめや差別をしないように気をつけることができる。	だれもがしあわせに生きたいと願っていることを理解し、いじめや差別を許さず、協力して解決することができる。	基本的人権について正しく理解し、いじめや差別、あらゆる人権侵害を許さず、協力して解決することができる。
集団	友だちと気持ちよく生活し、誰とでも仲良くすることができる。	友だちと協力し、課題は話し合いを通して解決することができる。	友だちと協力しながら、集団によってよいと思ったことは自ら進んで行動し、課題は話し合いを通して解決することができる。
役割	係や当番活動にすすんで取り組むことができる。	係や当番活動が集団生活にとって大切であることに気づき、すすんで取り組むことができる。	係や当番、委員会や児童会等の活動に積極的に取り組み、役割を果たすこと、貢献することの喜びを感じることができる。
コミュニケーション	きもちのよいあいさつができ、人の話をしっかりと聞くとともに、相手の言うことを理解しようすることができる。	きもちのよいあいさつ、反応ができ、相手の考えをしっかりと聞くとともに、自分の考えも伝え、折り合いを付けることができる。	きもちのよいあいさつ、反応ができ、互いに尊重し合いながら聞いたり伝えたりし、よりよく折り合いを付けることができる。

キラりんく(人権教育)をすすめるにあたって重視する「4つの側面」実践内容

AS 人権としての教育	IN/THROUGH 人権を通しての教育	ABOUT 人権についての教育	FOR 人権のための教育
就学の機会均等の保障のもと、子どもたちの「生きる力」を培う豊かな教育を受けることが保障されているか	人権の大切さを日常的に感じながら学習することができる環境、心理的安全性が確保された環境を、学校や学級において作り出すことができるか	人権についての理解を深める学習を通して、人権を守る意欲や態度をなくくとも、人権にかかわる問題解決のために行動できる力を培うことができるか	さまざまな立場の人の交流や、協働した活動を通して、自己有用感、自己効力感を高めながら他者を尊重する豊かな人間関係づくりをすすめることができるか
・子どもたちの「学びたい」「分かりたい」でできるように「生きる力」を呼び起こし、実現していく。 ・学習意欲を妨げるさまざまな要因を、子どもの立場で考え、一緒に取り除いていく。	・自分の存在が認められ、安心できる教室で学べるようにする。 ・ルールやマナーが尊重される風土の中で学べるようにする。 ・整理整頓を日常化し、「割れ意理論」を放置しないようにする。	・自分も人もかけがえない大切な存在であることが実感できる学習を行う。 ・自分や人の尊厳、基本的人権が脅かされる場面について、解決のしかたが考えられるようにする。	・「自分にもできることがある」「自分もだれかの役に立てる」ということを実感できる取組を行う。 ・知恵を出し合い、協力することで、楽しい時間や達成感・充実感が得られることに気付くようにする。
◆学力保障、多様な学びのある授業の創出(線型型、個別最適) ◆めざす資質・能力 桂坂IDER 課題発見・探究力 対話共感力 レジリエンス ◆自立を促す特別支援教育充実 ◆配慮を要する児童(生指上・総指上・被指上)へのアセスメントの向上、支援の強化 ◆不登校対策、支援の強化 早期、組織的対応	◆生徒指導実践上の4つの視点の浸透(発達支持的生徒指導) ◆学習規律の徹底(特に「聞く」) ◆学校いじめの防止等基本方針の理解、いじめ対策の強化 早期発見、組織的対応 ◆教室、校内のUD化、整理整頓・清掃の徹底 ◆教育相談週間、ていねいな聞き取り	◆毎月1回「なかなよしトーク」(人権について考える対話の時間) ◆人権についての学習「キラりんくタイム」のキャリア・パスポート・マネジメント(四つ巴の人権課題*と重点化する4つの人権課題**) *薬物乱用防止教育、生命(いのち)の安全教育、デジタルシチズンシップ・情報モラル教育、金融経済(消費者)・法教育 **いじめ根絶、ジェンダー・性の多様性、多文化共生、総合育成支援	◆学級活動や児童会活動での自治的な活動、ワクワクする魅力あるつながり時間の創出 ◆キャリア・パスポートの有効活用(「自己有用感・自己効力感」) ◆異学年交流 ◆校外学習・体験活動・外部協働・地域協働の充実(「ほんまもん」にてあ)

教職員の人権意識の高揚、取組推進の力量向上(研修、自己研鑽の強化)  
児童理解の場を定期的に設け、教育環境としての「あたたか」で受容力のある人権意識の高い教職員組織」をめざす。人権教育に係る理論実践について共通理解を図り、個の資質能力向上をめざすとともに、全教職員が人権教育を軸に教育活動を推進する実践力を身に付けるため当事者意識をもって研修に取り組む。

家庭や地域との連携(発信)  
あらゆる機会をとらえて人権教育の重要性や本校における人権教育の推進について理解と協力を得る。